

オオグチボヤ

一般に深海でのホヤ類（原索動物）は珍しいとされているが、その一種であるオオグチボヤの大規模な群生地（コロニー）は、これまで世界で唯一富山湾において、2001年の「しんかい2000」による深海調査（首席研究者：長沼 毅）で発見されている。オオグチボヤはその名の通り、大きな口をあけたような姿をしている。捕食性に関しては、水中を漂う懸濁物やプランクトンを摂取すると考えられているが、その詳しい生態は未解明である。



富山湾に棲息するオオグチボヤ（7月7日 ハイパードルフィンにて撮影）

保温保圧型深海生物捕獲飼育システム「ディープアクアリウム」

手前についでいる球状の耐圧水槽で生物を深海環境のまま捕獲し、飼育する。後ろの箱形の生命維持装置で水槽内の温度、圧力、溶存酸素等をコントロールする。

